

第5期 第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第5期 第4回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日 時 令和7年10月9日（木）午後7時から午後8時30分まで
- 3 会場 東久留米市役所7階 701会議室
- 4 出席委員 石橋委員（副会長）、石塚委員、稻部委員、齊藤委員、佐々木委員、鶴岡委員（会長）、中島委員、平林委員、藤盛委員、降矢委員、堀委員、茂木委員、山中委員、湯原委員以上14名
- 5 欠席委員 五明委員、高岡委員、富永委員、檜垣委員、森谷委員 以上5名
- 6 オブザーバー 田中障害福祉課長、新妻健康課長、後藤保険年金課長
- 7 事務局 廣瀬介護福祉課長、原田地域ケア係長、池主査、竹内主任
- 8 傍聴人 1名
- 9 次 第
- (1) 開会
- (2) 議題
- 議題1 今年度の多職種研修会について
- 議題2 第4回課題検討アンケートについて
- 議題3 その他
- (3) 閉会

10 配布・参考資料一覧

【資料1-1】今年度の多職種研修会について

【資料1-2】東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催 多職種研修会アンケート結果

【資料1-3】第4回多職種理解を深める会アンケート結果

認知症疾患医療センター多職種研修会チラシ

【資料2-1】第4回課題検討アンケート案

11 会議録（要点のみ筆記）

(1) 開会（省略）

(2) 議題

議題1 今年度の多職種研修会について

【会長】議題1の今年度の多職種研修会について、事務局から説明願う。

（事務局より【資料1-1】に沿って説明）

【会長】 それでは、事務局より説明があった実施済みの多職種研修会の詳細について、まず、(1) 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会主催分について、事務局から報告願う。

(事務局より資料【1-2】に沿って報告)

【会長】 続いて実施済みの多職種研修会(2) 東久留米市在宅療養相談窓口主催分について、委員から報告願う。

(委員より資料【1-3】に沿って報告)

【会長】 続いて実施予定の多職種研修会について、(1) 東京都地域連携型認知症疾患医療センター前田病院主催分について委員より説明願う。

(委員より資料【1-3】(チラシ)に沿って説明)

【会長】 続いて実施予定の多職種研修会について(2) 東久留米市在宅療養相談窓口主催分について、委員より説明願う。

【委員】 テーマは「心不全とACP」について、講師については、公立昭和病院循環器内科の岡田医師と調整中であり、日時についても調整中である。

【会長】 実施済みの多職種研修会の報告、実施予定の多職種研修会についての説明があったが、これについて意見や感想はあるか。

【委員】 苦労されて企画していただいたにも関わらず、参加者が期待通りに集まらないのはもったいないことだと感じるが、改善点として、平日の夜ではなく日中、または土日に行うのは難しいか。

【会長】 委員いかがか。

【委員】 ケアマネジャーの研修会は、全て勤務時間内で行なってる。夜だと夕食の時間でもあるし、残業にもなるのでなかなか厳しくなるではないか。1年に1回は勤務時間内に多職種研修を実施していただいても良いと思う。

【会長】 ほかに意見等はあるか。

【委員】 デイサービス部会では交流会みたいなものを行っているが、終業後の夕方や夜は人が集まらないことがある。昼間集まるとなると、昼食の問題が生じるので、施設を借りて、昼食を食べながら意見交換を行うことがある。

【会長】 ほかに意見等あるか。

【委員】 訪問系のサービスにおいては、夜の時間帯が必ずしも出席しにくい時間帯ではない。最近の研修セミナーで多いのは、対面とオンラインのハイブリッド型だと感じる。オンラインの中で部屋を分ければグループワークもできるし、移動中であれば聞くだけでも良いといった形にして、参加者を募るという研修が、とても増えてきていると感じる。

【会長】 ほかに意見等あるか。

【副会長】ハイブリッド型は増えてきているが、研修内容によっては、実施しやすいものとそうでないものがあると思う。また、オンデマンド配信も増えてきている。時間帯を選ばないで、期間を決めて視聴してもらうということになるかと思うが、いつでも視聴できると思うと視聴期間が過ぎてすることもある。ただそういった企画をしてみても良いと思う。

【会長】事務局へ確認だが、食事が付く研修会は可能か。

【事務局】市役所の会議室は原則食事ができない為、難しい。

議題2 第4回課題検討アンケートについて

【会長】続いて、議題2の第4回課題検討アンケートについて、事務局より説明願う。

【事務局】資料2に沿って説明させていただく。1枚目に「東久留米市在宅医療介護連携推進協議会に関するアンケート調査ご協力のお願い」という鏡文があり、前回の協議会の中で、アンケートについて説明をつけた方が良いのではないかということで、前回のアンケートと一緒に送付しているものを参考につけさせていただいた。回答率が上がるような文言があれば加えていきたいので、そういうご意見もいただければと思う。提出方法として、今回からLog o フォームを取り入れている。2枚目について、今回4つの場面ごとに課題の抽出ができるだけ行いたい為、前回から設問項目を変更している。協議会の委員の皆様におかれでは、4つの場面と言われてイメージができると思うが、他の機関の方々については4つの場面という言葉自体が、初めてお聞きになることかもしれない、説明の要旨としてつけた。4つの場面が「日常の療養支援」「急変時の対応」「入退院支援」「看取り」というカテゴリーであって、目指すべき姿や、それに対するサービスや支援内容の例示というものがあることを示したいと考えている。2枚目についても、こういう形で良いかをご意見をいただければと思う。3枚目以降は、アンケートの案となっている。変更点について、前回の協議会の中でもご意見をいただいたところだが、前回は、自由記述の部分も多く回答に負担感もあったというところで、今回は自由記述をできるだけ減らし、選択肢の項目を増やした。また、各職種でのアンケートとしていた部分を、できるだけ共通のアンケートに包含し、回答するときに所属機関や属性について回答いただくことで、事務局で選別ができる形とした。また、各職種での質問項目についても、設問数が多かったため、設問項目を減らしている。また、個別アンケートでは各職種に4つの場面ごとについて、どのような機関と連携を図っているかを伺う設問を入れている。次に、その4つの場面に関連して、全体アンケートの5ページ目の「7. 急変時の対応について」は、前回は設問としてなかったので、追加している。また、全体アンケート1ページ目の「在宅療養ガイドブック」といった文言についての説明を入れることで、回答しやすくした。また、他の調査やアンケートで得られる件数や数値を伺う設問項目については削除した。自由記述は減らしたとはいえ、課題の抽出というところでは「はい」「いいえ」だけの設問では

難しい為、ある程度は自由記述も残してる。

【会長】このアンケートについて各委員より意見を伺いたい。

【委員】この医療・介護連携については、重要なテーマだと認識している中で、介護分野からのアンケートという形になっている。医療と介護がどのような形で連携を取れば良いのかというの、まだ国から具体的には提示がされてない状況であるが、先取りでこういう形でアンケートを実施するのは大変素晴らしいことだと思う。アンケート後の結果の分析が大切になってくると思う。

【委員】「はい」「いいえ」で答えられる設問や、チェックをすれば回答できる設問が多く答えやすくて良いと思う。ただし、選択肢での回答が増えたことで、そこから得られる情報量については疑義が残る。例えば「はい」や「いいえ」をグラフで比較するだけではなく、何か意味ある情報を吸い出せる方法が何かあるのか、手立てがあれば知りたいと思う。

【委員】個別のアンケートの箇所についてP SW用の設問はないが、P SWとして多方面と積極的に連携していく必要があると感じた。特に病院側のP SWとしてケアマネジャーとの連携が重要になってくると感じた。

【委員】問6で「どのような時に東久留米市在宅療養相談窓口を利用されましたか。」という設問があるが、こちらに関しては、東久留米市在宅療養相談窓口の活動記録で報告を上げているため、削除しても良いと思う。次に「4. 認知症患者について」の箇所だが、認知症の方だけでなく、身寄りのない方についても問題になることが多いので、併せて確認しても良いのと感じた。次に「7. 急変時の対応について」の箇所の「問29 本人の意思決定についてどのようにしていますか」について、緊急時の意思決定というものが示しているものについて、もう少しはっきり伝わる文言だとありがたいと感じた。また個別アンケートにある「4つの場面ごとにお聞きします」という箇所で、「連携しての場所はどこですか」というのを事業所ごとに聞いているが、どこと連携しているかは課題ではなく、どこと連携しやすいのか、どこと連携しにくいのか、それは何故なのか、というところが課題として分析していくべき内容ではないかと思う。次に訪問看護ステーションの箇所で「各職種等の情報共有に当たり課題だと感じていることはありますか」とあるがこれは訪問看護ステーションだけでなく他の事業所にも確認した方が良いと思う。また4つの場面について、普段4つの場面に関わってない方に、この4つの場面ごとの目指すべき姿の資料を見て、理解するのは難しいと思うので、資料2の「高齢者の状態の変化と出来事のイメージ」の図については理解してもらうだけでも良いと感じた。全体のアンケートの中で「看取りについて」や、「急変時の対応について」という記載があるので、アンケートとしては十分得られる内容はあると思う。

【委員】設問数を減らし、提出方法についてL o g o フォームを入れていただき、回答のハードルが下がって良いと思う。

【委 員】アンケートの回答率をいかに高めるかというところで、まずはこのアンケートに答える意義を答える側に伝えることが大切だと思う。このアンケートに回答することで、答える側にもメリットがあるということを伝える文章を、1枚目の鏡文に加えると良いと思う。また、このアンケートを回答するための所要時間を記載することで、回答途中の離脱を防ぐことができると思う。また現状は、各機関の回答用のページに分かれているが、回答不要なページは見えなくすれば負担感が軽減されて良いと思う。回答形式について、複数選択回答も取り入れることで、回答者の負担を減らすことができると思う。

【委 員】個別アンケートに、デイサービスを加えられたら良いと思う。デイサービスは施設の認知症のある方と特に長く関わっているので、情報提供できる部分がかなりあると思う。もう一つは、最初の医療機関、介護事業所向けのアンケートで、「はい」「いいえ」で答えられる質問では得られる情報が限定期だと感じた。例えば、認知症患者についての問17に関しての「③本人の意思が確認できない」というのも、認知症の進み具合やケースによって、かなり細かく分かれてくる。それよりもこの「④その他（自由記述）」の欄を大きくした方が、同じ「意思が確認できない」ということ一つに関しても、幅広な情報が抽出できると感じた。

【委 員】このアンケートの意義を伝えるというところで、協議会の設置目的やテーマを一部サービス種別には記載があるが、全体に伝えた方が良いと思う。4つの場面の連携先の設問について、どこと連携先を図っているかを聞くだけではなく、連携しやすい、しにくい、話しやすい、話しにくい、連絡が取りやすいとか、具体的部分を設問として作成した方が得られる情報が多くなる感じた。ただ前回に比べて、特に居宅介護支援事業所の回答箇所はとても答えやすくなつたので、ありがたいと感じたが、情報として何が必要なのかというところがもう少し明確になると良いと思う。

【委 員】アスタリスクで「在宅療養ガイドブックとは」等文言の説明があり、また協議会設置目的の記載があり、親切で良いと思う。在宅で療養する中で、食の大切を皆さん理解していただいていると思うが、それをサポートしていく栄養ケアステーションとして課題はすごく多いと思う。そういう意味で、設問で自由記述があるのは良いと思う。

【委 員】アンケートの答える意義に明確に記載すれば、答える方も答えやすいと思う。また設問の自由記述の部分をもう少し欄を広く取っていただけると記載量も増えて良いと思う。

【委 員】「市内薬局 機関回答用」問4についての看取りの記載方法だが、実際、薬局の薬剤師が看取りを行うことはないと思うので、アンケートに答えるときに受け取り方が、各薬剤師によって変わってしまう可能性があると思う。この4つの場面のイメージが把握できている方なら、看取り期、終末期の対応をどうしているか、と読み取れるかもしれないが、薬剤師は看取りはやっていないため回答できないということにもなりうる。薬局におけるこの看取りの部分について、何か補足していただけ

ると回答しやすいと思う。

【委 員】歯科医師が回答するにあたり、共通の設問については、普段の業務ではなかなか取り扱わない為、正確な回答は難しいと感じた。

【副会長】回答する立場になってこのアンケートを見ると、施設単位で回答することになっているが、大きな施設が回答する場合は、施設内の意見をまとめるのも難しいだろうと感じた。また回答する施設が、普段行っている業務について、答えられる設問があると良いと思う。そういった設問があることで、4つの場面についての回答が、より効果的な分析ができると思う。また自由記載については、特にLog o フォームでは回答例があると回答しやすいと思う。このアンケートは4つの場面から医療と介護の連携の形というものが見えてくるアンケートだと思う。また経年比較できる設問項目を入れることで、在宅医療・介護連携推進事業がこの地域でどのように変化してきたか見えてくるし、将来の動向を予測できることもあるので入れていただけると良いと思う。4つの場面については、今後変わっていく可能性があるが、基本的な設問については、今後も継続的に入れていく必要があると思う。

【会 長】委員の皆さんから大変多くの意見をいただいた。いただいた意見については全部とはいかないが事務局で修正する。事務局に確認だがアンケートはいつ頃実施予定か。

【事務局】アンケートは11月頃を予定している。またいただいた意見については、変更できる箇所は変更し、できるだけ答えやすいアンケートにしていく。

【会 長】副会長から横断的なアンケートではあるが、同じ設問を毎回実施し、経年比較できるような設問があると良いという意見が出たが、事務局はいかがか。

【事務局】在宅療養ガイドブックや他の箇所でも、経年的に残している設問はいくつかある。逆に削除了設問でいうと、在宅医療・介護連携推進協議会というところで「介護職との連携が取りやすくなつたと感じますか」という設問を、各職種から回答してもらっていたが、おそらくアンケートを始めた当時は、医療と介護の連携が図られたかどうかを評価するために実施していたと思われる。今回は医療・介護職の連携というわけではなく、4つの場面について、どういうところと連携しているかを可視化していきたいと考えている。

【会 長】承知した。他に意見のある委員はいるか。

【委 員】利用者は病状が軽いときは、診療所へ行き、看取りになってくると施設へ入所という形になっていると思う。そこで利用者がどこまで施設について理解して利用しているか気になるところである。特に介護老人福祉施設について個別でアンケートすることで、経年比較しやすくなると思う。

【会 長】アンケートの実施まで1か月弱ということで、できる範囲で修正を行い、アンケートを実施したい。最終的な内容は事務局へ一任ということでよろしいか。

(異議なし)

議題3 その他について

【会長】議題3のその他について何か委員よりあるか。

【委員】東久留米白十字訪問看護ステーションから多職種研修（東京都教育ステーション事業）についてのお知らせを配布させていただいた。認知症について、VRを使用し体験する内容になっている。実際に認知症のある方がどのように感じるのかを体感していただく。普段来ていただく職種の方々や、グループホーム、デイサービスの方といった、実際に患者と触れ合う方々にぜひ参加していただきたい。

【副会長】昨年も少し説明をさせていただいたが、東京都が、手を挙げた地区医師会に対して、在宅医療強化推進事業の補助を行っている。東久留米市医師会はこの事業を活用しているが、内容としては、24時間診療体制推進事業とデジタル技術を活用した医療DX推進事業の2つがある。24時間対応に関しては、在宅訪問を実施している医療機関に関しては、当たり前のように24時間対応しているが、今後ますます高齢者が増え、在宅医療が必要な高齢者が増えると、一般の先生方にも対応していただかなければいけなくなる。在宅専門の診療所を増やすのではなく、地域の先生方が在宅に少しでも取り組んでもらうようにしていくためのサポートをすることが必要となる。在宅医療に踏み切る先生方が少ない一番の原因であるといわれているのが、休日、夜間の問題である。東久留米市医師会では休日、夜間、また診療時間中の急変時の対応について、サポート体制を構築するために、当番制で医師会に所属している在宅医療を中心に行っている先生方に協力いただいている。しかしサポート体制は作っているが、実際に開業の先生方で、在宅をしようという新たに取り組んでいこうという先生が少なく、せっかく作った当番制だが、活用できていないのが実情である。サポート体制の強化を図るために説明会も実施したが、もう少し積極的に開業の先生方が取り組めるような形にしなければいけないと考えている。

医療DX推進事業の取り組みとしては、休日診療所は電子カルテを採用しており、在宅の患者に対しては 医師会としてもサポートができるようにしている。ただ、それぞれの医療機関で、情報全てを共有するのが難しい状況である。電子カルテの共有化については、国の方でも動いており、医療機関や病院では80%ほどの導入率になっている。診療所についても、導入率は上がっており、60%ほどになっている。電子カルテの共有化については、全ての情報を共有するのではなく、診療情報提供書や画像といった内容を共有している。またマイナンバーカードと電子カルテの連携についても推し進められている。もう一つ、医療DX推進事業の取り組みとして、在宅患者の栄養管理、栄養指導について、DXを活用している。前回の協議会でもお伝えしたが、昨年度から在宅患者の栄養状態を「カロママプラス」や「リブレ2」というアプリやスマートウォッチを活用し、把握した上で、管理栄養士が栄

養指導を行うというモデルの事業を取り組んでいる。昨年は21名の在宅患者に対して東京都栄養士会の栄養ケアステーションを借りて栄養指導を実施した。指導後の評価は十分にできていない状況である。昨年度、1年間で3回指導してきたが、それだけで在宅患者の生活習慣が変わる訳ではないので、継続して行っていきたい。今年度は、各診療所の先生方の力をお借りして、25名程度に対して、実施していきたいと考えている。また皆さんには報告会や講演会を実施していく予定なので、何か決まり次第、情報共有させていただく。

【会長】ほかに委員より何かあるか。

【委員】今年も緩和ケア週間のパネル展示を市役所1階の広場にて行っておりますので、帰りがけに皆さん見て帰っていただければと思う。

(3) 閉会

【会長】本日の協議会の報告と議題は全て終了した。次回については12月の開催を予定している。委員各位におかれでは、今後の会議の開催進行に特段の配慮をいただければと思う。これをもって第5期第4回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。